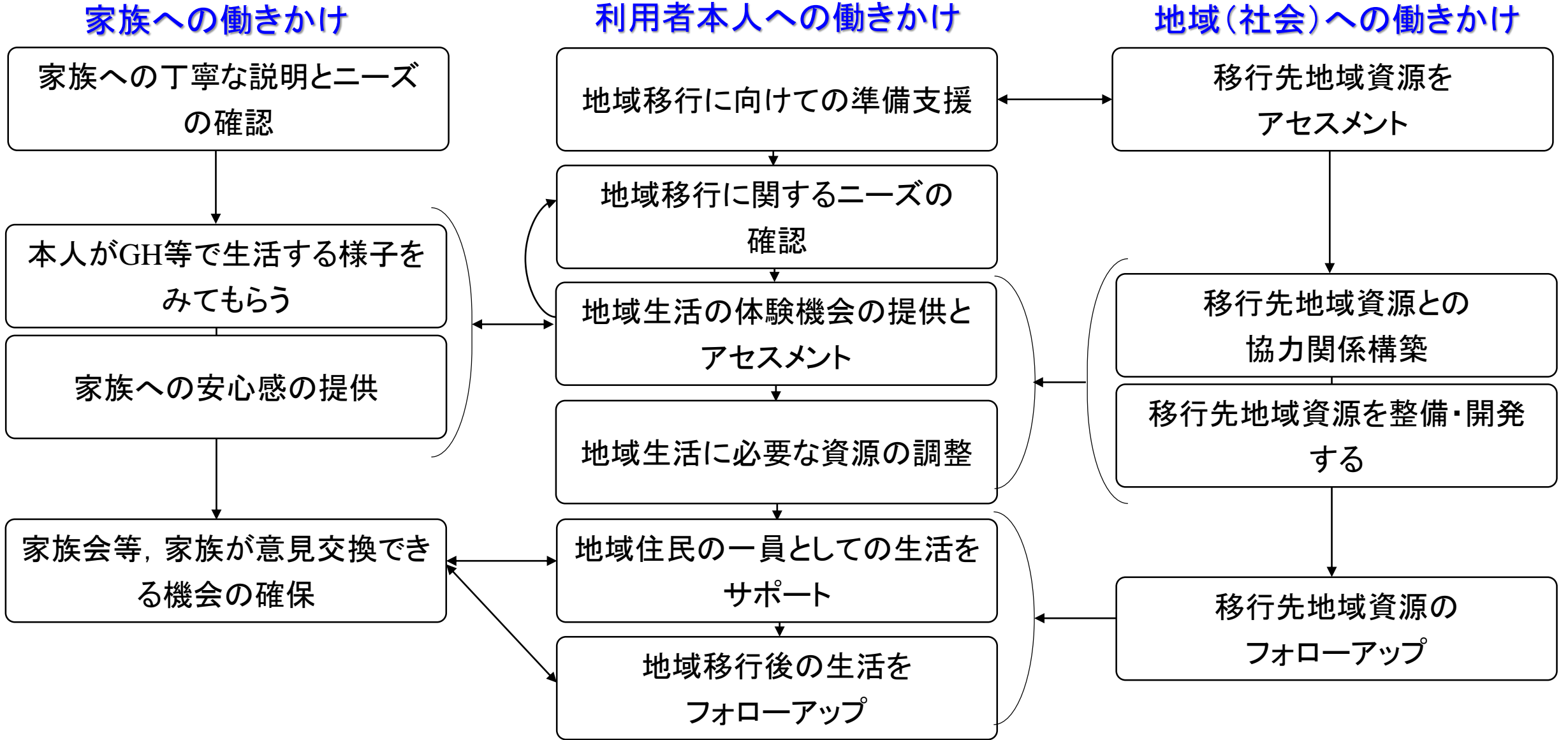


# “プロセス理論・サービス利用計画(プログラム活動の流れ図)”



# “プロセス理論・組織計画（プログラム活動の基盤・実施体制）”

## 地域移行・地域定着支援の流れ

### 入所施設

【機能】地域移行に向けての準備支援/体験支援，地域生活に必要な資源調整，フォローアップ支援，ご家族支援 など

### 地域の生活拠点（グループホーム等）

【機能】地域生活の体験支援，必要な資源調整，地域生活支援（移行後の支援） など

### 地域移行支援を支える仕組み（相談支援事業所，グループホームを支えるセンター機能等）

【機能】関係者が情報共有・交換できる会議の設定，地域移行後の利用者の生活をモニタリング，関係者への地域資源の情報提供，当該地域の福祉計画作成への関与 など

### 基盤となる理念・信念・価値と必要な知識・スキルを身に着ける機会

【理念・信念・価値】組織/支援者個人としての価値

【知識・スキルの向上機会】研修，スーパービジョン/コンサルテーション など

# “効果的援助要素”

## A 領域：サービス提供組織（全5項目）

- A-1 項目：支援組織として共有しておくべき理念・価値
- A-2 項目：支援者一人ひとりが共有しておくべき信念・価値
- A-3 項目：入所施設の体制や機能
- A-4 項目：地域の生活拠点（グループホーム等）の体制や機能
- A-5 項目：その他の地域移行支援を支える仕組み

## B 領域：地域移行に向けての援助プロセス（全6項目）

- B-1 項目：地域移行に向けての準備支援
- B-2 項目：地域移行に向けてのニーズの確認
- B-3 項目：地域生活を体験する機会の提供とアセスメント
- B-4 項目：地域生活に必要な資源の調整
- B-5 項目：地域住民の一員としての生活をサポートする
- B-6 項目：地域移行後の生活をフォローアップする

## C 領域：家族からの理解と支援を引き出すための取組み（全4項目）

- C-1 項目：家族への丁寧な説明とニーズの確認
- C-2 項目：利用者本人がグループホーム等で生活を体験する様子を見せよう
- C-3 項目：家族への安心感の提供
- C-4 項目：家族会等、家族が意見交換できる機会の確保

## D 領域：暮らしやすい地域づくりのための取組み（全4項目）

- D-1 項目：移行先地域の資源アセスメント
- D-2 項目：移行先地域資源との協力関係の構築
- D-3 項目：移行先地域資源を整備・開発する
- D-4 項目：移行先の地域資源をフォローアップ・バックアップする

## A-1. 支援組織として共有しておくべき理念・価値

### ■ この項目の説明：

支援組織は、次に示す《支援上の理念・価値》を備えておくことが望まれます。なぜなら地域移行を含む様々な利用者支援は職員一人の努力のみでは効果的に推進していくことが難しく、組織として共通の理念・価値に基づく支援が必要になるからです。

こういった《組織の理念・価値》が、利用者の地域移行・地域定着支援を押し進めていく指針になると考えられます。

### ■ この項目の効果的援助要素：

- 入所施設は生涯の住まいではなく、利用者はいずれ地域移行することが望ましいということが組織の共通認識になっている  
(以下のなかから1つでも該当した場合✓をつける)
  - △利用者や保護者に対して「いずれは施設を出てグループホームや一人暮らし等の生活に移行することを目指す」ということを口頭で説明している。
  - △契約書やパンフレット等に「いずれは施設を出てグループホームや一人暮らし等の生活に移行することを目指す」ということを明文化している。
- 利用者の地域移行に関する具体的な目標がある  
(以下のなかから1つでも該当した場合✓をつける)
  - △何年以内に地域移行を達成するという期間に関する目標が定められている
  - △年間何人の地域移行を達成するという地域移行者数に関する目標が定められている
- 利用者の地域移行にあたっては、利用者が最も望む場所（地域）での生活を支援することが組織の共通認識になっている  
(以下のなかから1つでも該当する場合✓をつける)
  - △利用者が望むなら、利用者が生まれ育った地域での生活を支援する
  - △利用者が望むなら、利用者が住み慣れた地域での生活を支援する
  - △利用者が望むなら、ご家族の生活圏域と近いところでの生活を支援する
  - △その他（ ）
- 利用者にとって必要な資源（制度やサービス）がないときは、それをつくっていくことに取り組むことが組織の共通認識になっている



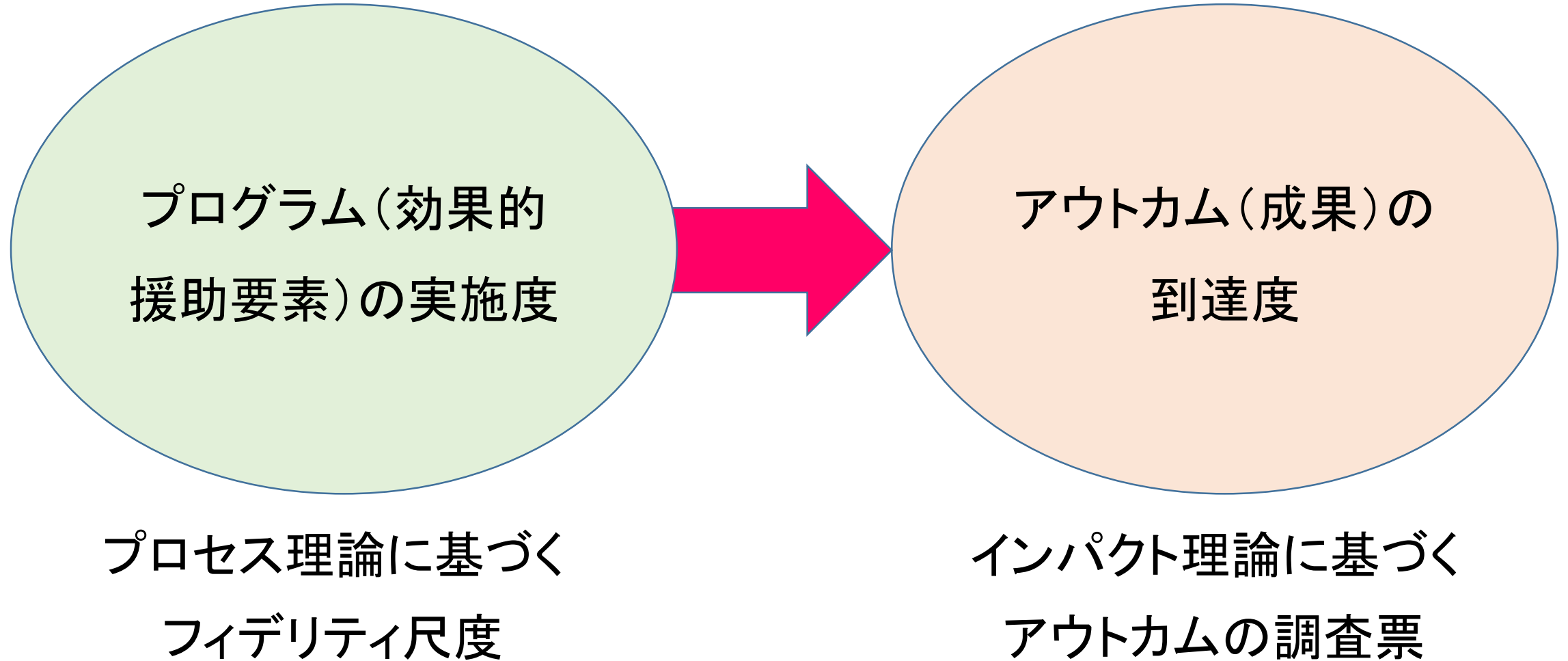
チェック項目	評価・アンカーポイント				
	1	2	3	4	5
<p><b>地域生活を体験する機会の提供とアセスメント</b></p> <p>●ここでは実際に地域生活を体験する機会を準備し、この体験をとおして具体的なアセスメント・意思確認を行います。</p> <p><u>&lt;a&gt;全ての利用者が地域生活体験の対象になる</u></p> <p><input type="checkbox"/>利用者がどのような状況にあっても、最初から地域生活体験は不必要と決めつけずに地域生活の体験を支援する（障害の重さ、年齢などに関係なく、全ての利用者を対象に地域生活の体験支援を行っている、あるいは行う方針であれば✓をつける）</p> <p><input type="checkbox"/>地域生活の体験に向けて、利用者一人ひとりの支援計画を作成する（この計画には、利用者のニーズや達成すべき目標、そのために必要となる支援が記入される）</p> <p><u>&lt;b&gt;体験の環境づくり</u></p> <p><input type="checkbox"/>利用者本人と良い関係性を構築できている支援者が、利用者の地域生活体験を支援する</p> <p><input type="checkbox"/>体験先（例えばグループホーム等）で一緒に生活する利用者同士の関係性（利用者同士の相性等）に配慮する</p> <p><input type="checkbox"/>必要に応じ、体験先（例えばグループホーム等）の生活環境の構造化（個々の特性を理解したうえでその人が理解しやすい環境を工夫）を行う</p> <p><input type="checkbox"/>利用者の居室には、利用者が好むものを持ち込み、利用者らしい部屋をつくる（例えば、使い慣れた家具やお気に入りの雑貨等）</p> <p><input type="checkbox"/>必要に応じ、体験の時間・日数を少しずつ増やしてみる（こういった配慮が必要ない利用者に対しては始めから適切な日数で体験を行えば良い）</p>	<p>B3 の項目は、このページと次のページの2ページとなっています。</p> <p>○は次のページにご記入ください。</p>	<p>B3 の項目は、このページと次のページの2ページとなっています。</p> <p>○は次のページにご記入ください。</p>	<p>B3 の項目は、このページと次のページの2ページとなっています。</p> <p>○は次のページにご記入ください。</p>	<p>B3 の項目は、このページと次のページの2ページとなっています。</p> <p>○は次のページにご記入ください。</p>	<p>B3 の項目は、このページと次のページの2ページとなっています。</p> <p>○は次のページにご記入ください。</p>

B3

チェック項目	評価・アンカーポイント				
	1	2	3	4	5
<p><b>B3 地域生活を体験する機会の提供とアセスメント(つづき)</b></p> <p><u>&lt;c&gt;地域生活の体験支援</u></p> <p><input type="checkbox"/> 利用者によくコミュニケーションをとるように心がける（言語的にも非言語的にも関わりの機会を多くもつ）</p> <p><input type="checkbox"/> 余暇・休日の過ごし方を色々と試行してみる（出かけるのが良いのか、部屋でゆっくりと過ごすのが良いのか、これらの割合はどの程度が丁度良いのか等）</p> <p><input type="checkbox"/> 日中活動と夜間の過ごし方とのメリハリをつける（例えば、日中は生活介護や就労支援等で過ごし、夕方・夜間はグループホーム等で過ごすなど）</p> <p><input type="checkbox"/> 様々な場面で、状況に応じ、段階的に支援の量を減らしてみる（例えば、家事支援の量を段階的に減らす、あるいは行動障害のある方の外出支援について段階的に付き添いの支援者人数を減らしてみる等。ただし、必要な支援はしっかりと提供する）</p> <p><input type="checkbox"/> 様々な場面で、状況に応じ、利用者を選択する機会をもってみる（例えば、夕食の献立や時間、見たいテレビ番組のチャンネル、入浴の時間、就寝・起床の時間など）</p> <p><input type="checkbox"/> 一度目の体験がうまくいかなかったも、利用者の同意を得ながら（前向きな気持ちを引き出しながら）二度目・三度目と挑戦する</p> <p><u>&lt;d&gt;地域生活のアセスメントと体験後の意思確認</u></p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に利用者の感想を聞く（状況に応じて、体験中の利用者が集まったの会議・意見交換会等も行う）</p> <p><input type="checkbox"/> 日頃から利用者の表情・様子を観察する（特に、良い表情・快く過ごしている状況はどのような場面なのかを丁寧に観察する）</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて、複数の支援者で利用者の意思を確認（推察）する（このとき、上記、利用者の意見や利用者の様子を手掛かりにする）</p> <p><input type="checkbox"/> アセスメントの結果や支援者の見立てを記録に残す</p> <p><input type="checkbox"/> 地域生活の体験後に、改めて今後の生活に関する希望について尋ねる（あるいは、利用者の意思を推察する）</p>	示されたいずれの要素も満たさない あるいは 示された要素のうち 1-5 要素を満たす	示された要素のうち 6-13 要素を満たす	示された要素のうち 14-16 要素を満たす	示された要素のうち 16 要素を満たし、<a><b><c>それぞれ 2 要素以上を満たす	示された要素の全てを満たす

【この項目をチェックするうえでの注意事項】

# “プログラムの有効性の検証(予定)”



# “効果的援助要素と成果の分析（※スライドは別事例です）”

	1年間の就職者数	6か月までの定着者数	1年までの定着者数	2年までの定着者数
総合(そうごう)	<b>.449**</b>	<b>.446**</b>	<b>.419**</b>	<b>.282**</b>
A1	.207**	.188**	.208**	
A2	.204**	.264**	.305**	.239**
A3	.274**	.240**	.281**	.219**
B1	.424**	.386**	.384**	.317**
B2	.281**	.182**	.223**	.202**
B3	.345**	.336**	.371**	.262**
C1	.325**	.304**	.254**	.237**
C2	.219**	.238**	.273**	.234**
C3	.363**	.365**	.356**	.235**
D1	.183**	.235**	.216**	
D2	.383**	.334**	.331**	
D3	.317**	.225**	.266**	
E1	.257**	.302**	.214**	.144*
E2	.294**	<b>.283**</b>	<b>.269**</b>	<b>.232**</b>

# “報告の内容”

- なぜ，地域移行・地域生活なのか
- 全国の素晴らしい実践（Good Practices事例）の経験から
- 効果的な支援モデルの提案
- まとめ（研究の今後と自立支援協議会に期待したいこと）



# “研究の今後”

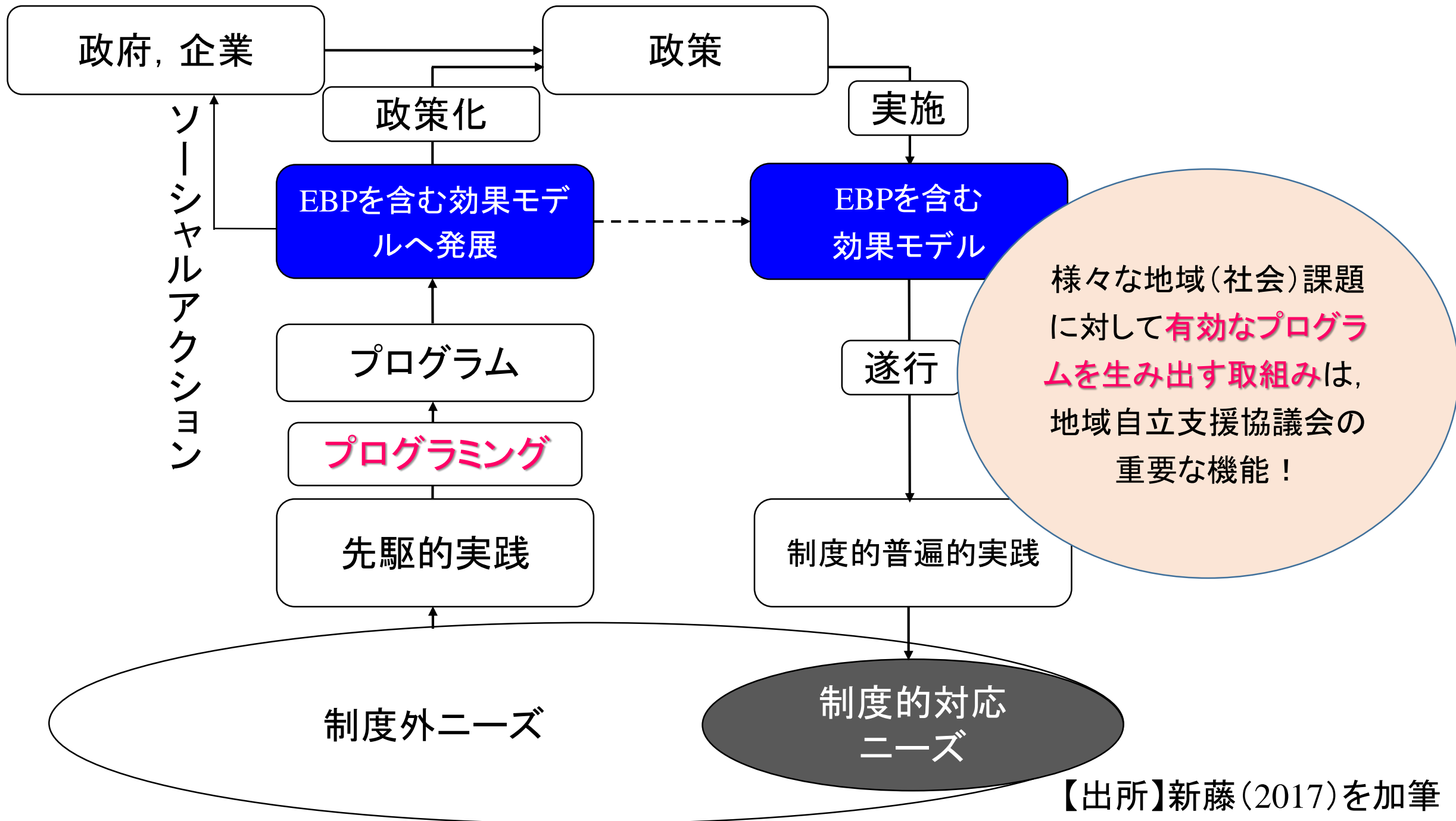
入所施設で行  
う丁寧な地域  
移行支援

相談支援事業所や入所施  
設ではない支援機関による  
地域移行・地域生活支援

- 今回の研究では、**入所施設で行う丁寧な支援モデル**を開発した。
- 今後の研究では、**地域からアウトリーチで行う地域移行・地域生活支援のモデル**開発に取り組む(予定)。

# “地域自立支援協議会の機能”

情報機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 困難事例や地域の現状・課題等の情報共有と情報発信</li></ul>
調整機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域の関係機関によるネットワーク構築</li><li>・ 困難事例への対応のあり方に対する協議, 調整</li></ul>
開発機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域の社会資源の開発, 改善</li></ul>
教育機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 構成員の資質向上の場として活用</li></ul>
権利擁護機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 権利擁護に関する取組みを展開する</li></ul>
評価機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中立・公平性を確保する観点から, 委託相談支援事業者の運営評価</li><li>・ サービス利用計画作成費対象者, 重度包括支援事業者等の評価</li><li>・ 市町村相談支援機能強化事業及び都道府県相談支援体制整備事業の活用</li></ul>



# “参考・引用文献”

- Becker, D. R. and Drake, R. E. (2003) *A Working Life for People with Sever Mental Illness.*, Oxford University Press. (=2004, 大島巖・松為信雄・伊藤順一郎監訳『精神障害をもつ人たちのワーキングライフ:IPS:チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』金剛出版.)
- JIPSA <<https://jipsa.jp/>>
- 国立精神・神経医療センター <<https://www.ncnp.go.jp/nimh/chiiki/research/05.html>>
- 厚生労働省(2019)『障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る成果目標及び活動指標について』第96回社会保障審議会障害者部会資料 <<https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000571138.pdf>>.
- 大島巖, 源由理子, 山野則子, 他(2019)『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法』, 日本評論社.
- 新藤健太(2017)「CD-TEP法を活用した事業評価手法の開発:事業評価にプログラム評価の理論と方法を活用した試み」『日本評価学会春季第14回全国大会資料』.